

大学の世界展開力強化事業

「日本発信力強化に貢献する
ミャンマー・ラオス・カンボジア
知日人材養成プログラム」

東京外国語大学

事業責任者

大学院総合国際学研究院 教授 鈴木玲子

交流プログラムの背景・目的ー1(大学国際化) ①

「世界の言語・文化・社会の研究教育を通じて、世界諸地域の人々と協働し、
地球的課題に取り組むことのできる多言語グローバル人材を養成する」

(国立大学法人東京外国語大学第三期中期目標前文)

2014 「国内外に開かれたネットワーク中核大学」宣言

⇒ スーパーグローバル大学創成事業を推進中

目標①

多言語
グローバル人材の養成

アクション
①

本学学生のグローバル化
・言語能力の可視化
・留学拡大
・Joint Education Program

目標②

世界における
「日本発信力強化」

アクション
②

**世界の日本語・日本教育
拠点への支援**
・Global Japan Office 構想
・「日本研究」留学生受入拡大

目標③

日本の他大学の
国際化支援

アクション
③

共同利用事業
・海外拠点の活用
・留学支援共同利用センター
の活用

本事業の目的

ミャンマー、ラオス、カンボジアに関する本学の人材養成機能を強化するとともに、
ミャンマー、ラオス、カンボジアの日本拠点を支援し、知日人材の養成を実現する

社会的ニーズ・必要性

東南アジア全般で、日本発信力の強化のため、現地で日本教育・日本語教育にあたる人材の養成が不可欠。

特に、国際的な文化支援競争のなか、日本教育・日本語教育体制の未熟な**ミャンマー・ラオス・カンボジア**に対する日本からの支援は、急務。

ミャンマーとの交流実績

ヤンゴン大学
国内随一の「国際化拠点校」。トップ大学。

ビルマ語教育開始:昭和56年。
ヤンゴン大学との協定平成26年、以来、交換による学生交流(派遣6名、受入れ3名)、教員招聘4名。

ラオスとの交流実績

ラオス国立大学
国内唯一の「日本語学科」。トップ大学。

ラオス語教育開始:平成10年。
ラオス国立大学との協定平成10年、以来、交換による学生交流(派遣26名、受入れ19名)、ラオス語教員を2、3年交代で招聘。

カンボジアとの交流実績

王立プノンペン大学
国内唯一の「日本語学科」。トップ大学。

カンボジア語教育開始:平成10年。
王立プノンペン大学との協定平成12年、以来、交換による学生交流(派遣26名、受入れ16名)、カンボジア語教員を2、3年交代で招聘。

本事業の目的

ミャンマー、ラオス、カンボジアに関する本学の人材養成機能を強化するとともに、ミャンマー、ラオス、カンボジアの日本拠点を支援し、知日人材の養成を実現する

交流プログラムの内容－1

③

ミャンマー
ヤンゴン大学

ラオス
ラオス国立大学

カンボジア
王立プノンペン大学

日本から
ミャンマー・ラオス・カンボジアへ

3段階の
交流プログラム

ミャンマー・ラオス・カンボジアから
日本へ

短期Joint Education Program

学部前半

短期Joint Education Program

1年間の交換留学

学部後半

1年間の交換留学

ミャンマー・ラオス・カンボジア
研究の院生派遣

大学院

日本研究の院生受け入れ
(総合国際学研究科)

特徴①

学部から大学院までの
一貫したプログラム

特徴②

本学の理念・ビジョンに
合致したプログラム

特徴③

同数に近い交換を実現する
プログラム

特徴④

本学学生が日本教育・
日本語教育をサポート

特徴⑤

受入学生のボランティア、
インターンシップ機会

特徴⑥

ASEAN+3のガイドラインの
定着を支援

交流プログラムの内容ー2(実績と新たな展開) ④

မြန်မာဘာသာ
 ဘာသာစကား
 ភាសាខ្មែរ

ビルマ語専攻設置: 昭和56年

ラオス語専攻設置: 平成5年

カンボジア語専攻設置: 平成5年

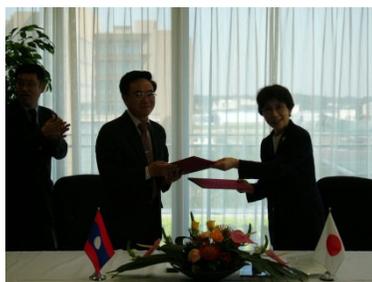
専攻言語教育

協定締結



ヤンゴン大学との大学間
 交流協定調印式・
 Global Japan Office開所式
 (平成26年)

王立プノンペン大学との大学間
 交流協定調印式(平成12年)



ラオス国立大学との大学間
 交流協定の更新(平成16年)

交流プログラムの新たな展開

- ・「短期Joint Education Program」受入の開始
- ・派遣・受入れ留学生数の増加
- ・本学からの派遣学生による、現地大学での日本語教育支援の実施

交流実績と成果

日本に留学したミャンマー、ラオス、カンボジア留学生の進路:
 ⇒ 日本語講師、商社、JETRO、JICA、日系企業など



ヤンゴン大学日本語教室
 (本学学生による指導)



王立プノンペン大学における交流
 (青の制服が本学学生)



ラオス国立大学での
 短期留学修了証書授与式

交流実績	派遣	受入れ
ヤンゴン大	H26-27: 6名(交換)	H27: 3名(交換)
ラオス国立大	H11-27: 26名(交換)	H11-27: 19名(交換) H11-27: 4名(研究生) H11-27: 1名(修士修了)
王立プノンペン大	H13-27: 26名(交換) H15-27: 3名 (大学院生研究留学)	H13-27: 16名(交換) H20-27: 6名(研究生) H21-27: 5名(修士修了)

実現に向けた取組（環境整備、準備状況）

⑤

本交流プログラムの準備状況

先方大学との準備

- ・ヤンゴン大学、ラオス国立大学、王立プノンペン大学の窓口教員と密接な連絡体制
- ・ヤンゴン大学には2015年1月に、本学海外拠点（Global Japan Office）設置。日本語教育支援開始。

関連組織との提携

- ・本学の学生による活動実績のあるNGOや企業との協力体制構築済み
- ・外語会（本学同窓会）との協力体制構築済み

派遣に関する全学的環境

留学前

- ・留学支援共同利用センターによる留学支援
- ・危機対策教育の徹底

留学中のサポート体制

- ・「ただいま留学中」サイト利用による連絡体制
- ・外語会支部やGlobal Japan Office からの支援

留学後

- ・帰国後のレポート提出を義務付け
- ・留学体験者への就職支援

「ただいま海外留学中」サイトによる安全確認の取組



受入に関する全学的環境

在籍管理

- ・正規生[350人]: 教務課・留学生課が担当
- ・非正規生（短期・交換）[224人]: 留学生課が担当

就学・生活のサポート体制

- ・全交換学生に、指導教員・日本語教育担当教員・学生チューターを配置
- ・徹底した日本語教育の機会提供
- ・英語でのカウンセリングなど

就職支援

- ・外国人正規生へのインターンシップ
- ・留学生の就職支援体制

継続的実施のための予算計画



終了後は、本学の基金や寄付金、また大学の運営予算により実施

プログラムの発展性

3段階の交流プログラム・モデル

段階的で、効果的な学生交流プログラム

- ・3段階の交流プログラム・モデルを参照例に当該3国との共同教育を拡充
- ・ジョイントディグリーを検討

日本発信力強化へ

日本研究・日本語研究支援

- ・本学からの留学生による日本語教育支援を拡大
- ・Global Japan Office運用
- ・国際交流基金との協働

東南アジアとの関係強化へ

東南アジアの大学や同地に進出する企業との連携

- ・3大学の教育国際化に貢献(ASEAN+3へ対応)
- ・現地の日本語学習者をさらに増やす
- ・日本企業が必要とする人材養成

